

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。

- 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
- 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
- 専門コース設置校の特色を生かして生徒の学習意欲を引き出し、多様な進路をサポートできる教育活動を継続していく。

2 中期的目標

1 進路実現をはかる学力の育成

- 学校経営推進事業の令和2年度の支援校に認定されたことを受け「心を鍛えるつばさチャレンジ」として創意工夫の授業改革に取り組む。
 - タブレット等を整備し、「わかる授業」「魅力ある授業」を創出する。
 - 相互の授業見学や研究授業、授業改善の研修を通じて積極的に授業改善を図る。
※学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率を65%とし、R5年度には70%以上にする。(H30年度56% R1年度64% R2年度69%)
- 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成をはかる。
 - 学力生活実態調査を年2回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
 - 生徒の学力の分析を行い、生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高めるためにデータに基づいた取組みをおこなう。
※平成29年度から導入した学力生活実態調査のA・Bゾーンの生徒数を、R5年度まで20人以上維持。
※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答90%以上を維持する。
※中堅私大の合格者をR3年度は3人、R5年度までに10人以上にし維持する。(H30年度11人 R1年度2人 R2年度1人)
- 多様な進路ニーズに応えるため専門コースや総合系の授業を充実させる。
 - 高大連携により大学での学びの先行実施を行い、人文ステップアップコースの進学に対する生徒のモチベーションアップを図る。
 - 専門コース(社会文化コミュニケーションコースや美術工芸表現コース)の特色を生かした取組みを行う。

2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成

- 学校経営推進事業の令和2年度の支援校に認定されたことを受け「心を鍛えるつばさチャレンジ」としてコミュニケーション力のある人材を育成する。
 - 教育相談体制の再構築とカウンセリングの手法を用いた対話主体の生徒支援をおこなう。
 - 開発的カウンセリングの視点をもって、学校経営推進事業で整備した箱庭を活用して生徒の自己肯定感の育成をすすめる。
 - ユニバーサルデザインの授業等でのプレゼンテーション活動を通して生徒の自己発信力をたかめる。
※学校教育自己診断のアンケート(教員)「教育相談体制が整備」の肯定率をR5年度まで75%以上を維持する。(H30年度68% R1年度59% R2年度79%)
- 規範意識と帰属意識を育成する。
 - よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、教員全体が協力して一人ひとりを大切にする丁寧な生徒指導をめざす。
 - 学校が安心できる居場所づくりとなるようにSNS等の適切な使い方を教えるとともに複数回の面談を通して学校生活への定着をすすめる。
※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率をR3年度80%にし、R5年度には85%以上をめざす。(H30年度67% R1年度77% R2年度78%)
※学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身にに応じてくれる」をR5年度までに75%以上をめざす。(H30年度63% R1年度67% R2年度70%)
※担任、進路指導担当による生徒面談複数回実施(100%)
- 部活動の活性化を図る。
 - 継続的な入部促進と退部率の抑制により、帰属意識を高める。
 - 地域との交流を通して自己有用感の向上を促す。
※部活動の加入率をR5年度まで60%をめざし、退部率前年度比5%未満を維持する。(加入率 H30年度67% R1年度57% R2年度55%)
- ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る。
 - 社会貢献活動をとおして自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - 地元小中学校や地域社会と連携し、地域活動や異校種との交流を通じて社会に貢献する活動を推進する。
※小学校、中学校や地域の行事、学習活動等に参加する機会の設定(年間2回)
- 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。
 - 「ともに学びともに育つ」の理念のもと、共生推進教室の生徒が他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。
※R5年度まで、共生推進の生徒の進路決定率100%を維持する。

3 校内組織の改革と後継者の育成。

- チーム学校として機能する体制整備
 - 大職員室でのコミュニケーションを活性化する。
 - 分掌再編にあたり、業務の見直しを図る。
 - 全教職員が各コースに所属し後継者を育成することで、コース授業の改善とともに継続と定着を図る。
- 人材育成と意識改革
 - ミドルリーダーを中心に、経験年数の少ない教員のOJTを図るなど、チームとして機能する職場づくりを推進する。
 - 教職員一人ひとりの意識改革を図り、勤務時間の管理や健康管理を徹底し「働き方改革」に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価

<p>進路実現をはかる学力の育成</p>	<p>1)「わかる授業」をめざし 創意工夫の授業改革に 取り組む ア「学びを自信に」つなげ る授業改革 イ 校種を超えた授業公 開・研究授業 (2)「確かな学力」の定着 から進路実現できる学 力の育成を図る ア 学力生活実態調査の 導入実施 イ 生徒が進路実現へ積 極的に取り組むモチベ ーションを高める取組み (3)多様な進路ニーズに応 えるため専門コースや総合 系の授業を充実させる ア 高大連携の活用で相 互意識の向上 イ 専門コースの内容のラン グアップ</p>	<p>(1) ア・コース授業改善委員会を核に新学習指導要領の主旨を 踏まえ、「わかる」から「自ら考える」ことで「学 びを自信に」つなげる授業改善に向けた研修。 イ・小中学校の公開授業や研究授業を複数教科で開催。 (2) ア・学力生活実態調査（4月と10月実施）をツールにし て学力定着度を測定・分析。進路目標実現に向け キャリアパスポート等で具体的な支援を実施。 イ・学習支援クラウドサービス等の活用により家庭学 習の定着を支援。 ・長期休業中には「勉強マラソン」を行い、主体的学び へつなげる自学自習の習慣を習得させる。 ・1年次進学準備クラス、2年次以降人文ステップアップコース により進学希望の生徒のモチベーションアップを図る。 ・図書室の継続的な開室をめざし、読書活動の活性 化を図る。 (3) ア 大阪成蹊大学、龍谷大学との高大連携等を活用し た高大接続に繋がる大学等での学びの先行実施。 イ 社会文化コミュニケーションコースでのフィールドワークの実施。異校 種や地域の連携先と交流活動、防災教育等の実施。 美術工芸表現コース国公立、嵯峨美術大学、大阪芸術 大学、京都芸術大学等中堅美大の合格にむけ、制 作スキルの向上と展示運営のスキルの習得。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断（生徒） 「授業は分かりやすい。」肯定率 65%以上を維持。 [69%] イ・異校種連携で研究協議1回以上設定。[1回] (2) ア・学力生活実態調査の上位者（A・B1ゾーン）20人[16 人]進路実現に対する満足度の肯定率 90%維持。 [94%] イ・学習支援クラウドサービスの活用により学校教育 自己診断（生徒）「家庭学習が習慣となった。」肯定 率 50%。[46%]「勉強方法が身についた。」肯定率 50% をめざす。[-] ・中堅私大の合格者3人以上をめざす。[1人]看護医 療系合格者10人以上を維持。[17人] ・週に2回昼休みの図書館の開館をめざす。[-] (3) ア・参加生徒へのアンケートで満足度 60%以上。[91%] イ・社会文化コミュニケーションコースのフィールドワークの参加者への アンケートで満足度 60%以上。[92%] 美術工芸表現コースはアンケートにより制作の発表におけ る満足度 60%以上。[3年 71%, 2年 95%]</p>	
<p>豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成</p>	<p>(1) 学校経営推進費支援 校として「心を鍛え るつばさチャレン ジ」の取組みにより 社会に通用するコミュ ニケーション力のある人材 を育成 ア 教育相談体制の再構 築 イ コミュニケーション力育成 ウ 自己発信力向上 (2)規範意識と帰属意識の 育成 ア 生活指導の充実 イ 相談体制の充実によ る安心できる居場所づ くり (3)部活動の活性化 ア 部活動を通じた自己 有用感の向上 (4)社会への参画意識の育 成 (5)共生推進教室の取組み</p>	<p>(1) ア 教育相談体制の再構築とカウンセリング的な手法を用い た、対話を中心とした生徒対応ができるように教職 員の意識と行動の変容を促す。 イ 開発的カウンセリングの視点からの生徒の自己肯定感を 育成するために SC,SSW および地域と連携した諸 活動を通して双方向のコミュニケーション力の育成を図る。 ウ エンハンスメント授業等で生徒がプレゼンテーション等の体 験活動を通して自己発信力の向上をめざす。 (2) ア 遅刻多数の生徒に対し、5回ごとに改善指導を行 い生活習慣の確立を促し遅刻者数の減少をめざす。 イ 安心して学校生活を送るため SNS 等の適切な使い 方を学び良好な人間関係を構築できるようにすると ともに、きめ細かな面談の実施（2回以上/年間）。 (3) ア 継続的な生徒の入学促進と多様な場面での活動を 促す。帰属意識を高め自己有用感の向上を図る。 (4) ア 地元小中学校や地域社会と連携し、社会に貢献す る活動を推進する。 (5) ア 共生推進生徒と普通科の生徒との協働活動の場面 を行事などにおいて設定する。 イ とりかい高等支援学校と連携して実習先、進路先 を確保。就労への丁寧な意識づけと支援をおこなう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断（教員）で「教育相談体制が整 備」の肯定率 75%以上を維持。[78%] イ・同（生徒）「学校に行くのが楽しい。」肯定的回答 80%をめざす。[78%] ウ・同（生徒）「授業を通して自信がついた。」 肯定的回答 60%をめざす。[57%] (2) ア・遅刻者数を前年度比で5%減少[3397]、欠席者数 は前年度同程度を維持する。[2967] イ・学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身 に応じてくれる先生が多い。」72%をめざす。[70%] 同（生徒）「先生はプライバシーや知られたくない 秘密を守ってくれる。」80%維持。[81%] ・SNS 関係の LHR の実施[2回/年] ・担任と進路指導部による生徒面談の実施[2回/ 年] (3) ア・1年生の部活動の参加率 60%をめざし、年度内の 退部率を5%以内とする。[参加率 57%、退部率 2%] (4) ア・小中学校、地域自治会との連携の機会を年1回設 定する。[-] (5) ア・共生推進教室設置校対象のアンケート等で第3学年の 生徒の協働活動満足度 60%。[-] イ・3年生全員の進路実現 100%</p>	
<p>校内組織の改革と後継者の育成</p>	<p>(1)チーム学校として機 能する体制整備 ア教職員同士の活発なコミュ ニケーションの機会を設定す る。 イ分掌再編による業務内 容の精選 ウ専門コースの充実 (2)人材育成と意識改革 ア 教員の育成 イ 教員の意識改革によ る「働き方改革」の推進</p>	<p>(1) ア大職員室に移行し全学年での日常的なコミュニケーションを 活性化する。 イ分掌再編に伴い行事の工夫改善を図る。 ウ全教職員が各コースに所属し、後継者を育成することで コース授業の改善とともに継続と定着を図る。 (2) ア「ミドルリーダー」を中心に経験年数の少ない教員の育成に チームとして取り組む イ「府立学校における働き方改革に係る取組みにつ いて」に沿って教員の意識改革を図り、勤務時間の 管理、健康管理の徹底に努める。</p>	<p>(1) ア・「学校教育自己診断（教員）相談し合える職場の人 間関係ができています。」55%をめざす。[52%] イ同（教員）「学校行事の工夫改善を行っている。」肯 定的回答 70%維持。[79%] ウ・各専門コースで教材の共有を図る。 (2) ア・経験年数の少ない教員への授業見学週間等の設 置。[2回/年] イ・時間外勤務の抑制と昨年度比5%縮減、および一 斉退勤日の設定と遵守。[月1回]</p>	